

# 令和2年度事業報告書

(事業報告・収支計算書)

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月 31日

令和3年6月22日

一般社団法人マリン・エコラベル・ジャパン協議会

## 1. 会員状況

令和3年3月末の会員一覧

種 別		令和元年度末	増	減	令和2年度末
普通 会員	団体	16	3	0	19
	会社	23	0	0	23
	計	39	3	0	42
賛 助 会 員	団体	1	0	0	1
	会社	0	0	0	0
	計	1	0	0	1
合 計		40	3	0	43

## 2. 役員等の構成

会 長	専務理事	理 事	監 事
1	1	10	2

## 3. 機構及び職員数

役 職	事務局長	部 長	課 長	係 長
事業部	1	1	1	1

## 4. 主要事項

### (1) 協議会運営

通常総会および理事会を開催し、事業報告、決算等の協議会の事業運営に関わる事項および規程類の改正を決議した。また、財務基盤の安定化、円滑な事業運営のため、会員の募集活動を行った。

事項・内容等	期日・回数等	場所等
第19回理事会	令和2年 5月25日	書面
第5回通常総会・第20回理事会	同 6月15日	大日本水産会会議室
第21回理事会	同 11月19日	大日本水産会会議室
第22回理事会	令和3年 3月23日	大日本水産会会議室

### (2) GSSI 関連

令和2年11月から「継続性確認審査 (MOC A (Monitoring of Continued Alignment))」の対応を行っている。GSSI側とは1回/月のペースでウェブ会議を行い、提出書類、スケジュール等の確認を行った。9月に最終的なガイドラインの説明があり、認証規格の自己評価 (新規、修正)、審査報告書 (英訳版) を提出、諸課題 (V1・V2ラベル管理、苦情対応、ピアレビュー制度) について報告した。12月から専門審査員の監査 (デスクトップレビュー) を行っているが、追加書類の提出を行い、3月の時点で監査期間が延長されている。4月にはベンチマーク委員会の監査に移行し、その後パブリックコンサルテーション (30日間) を経て、理事会の稟議を受けるが、令和3年第2四半期前半の完了を目指している。

GSSIはベンチマークツールV2.0への移行準備を進めており、令和3年第3四半期からの導入を予定している。本協議会は、スキームオーナーの立場から改定内容に意見し、パブリックコンサルテーションに参加した。今後は改定版ベンチマークツールに合わせて認証規格、ガイドラインの改定作業を進めていく。

GSSIスキームオーナー・アドバイザーリー・グループに加わり、GSSIが掲げる、水産業界の社会・倫理ベンチマークツールの開発、途上国向けの小規模漁業の持続可能化支援等の取り組みへの意見交換に参画している。

事項・内容等	期日・回数等	場所等
G S S I ウェブ会議 (M O C A, スキームオーナー会議)	令和2年4月～令和3年3月 (適宜)	M E L 協議会

### (3) 認証規格等の開発

認証審査、審査報告書の品質向上、グローバル認証に相応しいスキームにすることを目的として、漁業・養殖審査にピアレビュー制度を導入することとした。9月15日に規格委員会を開催し、11月の理事会で承認された。漁業は11月の十三湖シジミ漁、養殖は2月の青森ホタテ養殖から導入した。

1月28日に養殖規格委員会を開催し、中間種苗の取り扱い、養殖審査単位の指針(サンプル数の合理的根拠)、モイストペレットの取り扱いの考え方を整理することとした。本件は本協議会の方針と、認証機関・審査員の間で理解の曖昧な部分が発見され、その是正、審査の標準化を目指していく。第22回理事会で諮問、了承を頂いた。今後正式にガイドライン、認証機関への要求事項に反映していく。

C o C 認証規格に関して、専門家の意見を反映して一部の文言や表現の修正を行った。新たに東京海洋大学の中原准教授に専門委員に就任していただき、C o C 規格の体系整理、また日本の独特な流通加工の構造を反映した規格の改良に努める。

養殖規格の根幹である飼料に関して、養殖事業者、飼料生産者からM E L の考え方を問われる機会が多くなり、飼料を含めた養殖オペレーションのフルトレーサビリティを保証する意味でも配合飼料、魚油魚粉の認証規格の開発を検討することとした。本年度は行政、関係団体と意見交換を行った。

事項・内容等	期日・回数等	場所等
ピアレビュー制度導入に関わる意見交換、検討会	令和2年4月～11月(適宜)	M E L 協議会他
養殖認証(3案)に関わる意見交換、検討会	同 10月～令和3年3月 (適宜)	M E L 協議会他
C o C 認証の軽微な修正に関わる意見交換、説明会	同 4月～令和3年3月 (適宜)	M E L 協議会他
配合飼料、F M ・ F O 規格に関する調査、意見交換	同 4月～令和3年3月 (適宜)	M E L 協議会他

#### (4) 国内外における広報・宣伝活動

##### 【国内】

ME Lの普及・啓蒙活動について、東京シーフードショー（9月30日～10月2日）、芝公園SDGs村（10月31日～11月1日）、FOODEX JAPAN 2020（3月9日～12日）、大阪シーフードショー（3月17日～18日）等のイベントに出展し、ME Lの紹介、認証事業者の水産物や商品のアピールを行った。

東京シーフードショー期間中に大日本水産会が主催した「水産エコラベル・ミニワークショップ」に参画し、生産者、卸売、小売・外食、水産学界、消費者団体、環境団体、他スキームの日本代表と共に、ポストコロナにおける水産エコラベルの価値と役割、ME Lの使命について議論した。

東京都卸組合、東京都卸協会主催の「豊洲市場水産エコラベル・シンポジウム（11月7日）」に参加し、中間卸業態の持続性への取り組みに対する意識醸成を促した。

その他、東京湾大感謝祭（10月1日～25日）、暮らしフェスタ2020（10月9日～12月9日）、FISH-1グランプリ（1月22日～2月26日）にオンラインで参加した。

東京サステナブル・シーフード・シンポジウム2020（11月4日～11日）、ATC海洋WEEKのSDGsセミナー（3月18日）に垣添会長がパネリスト、登壇者としてそれぞれ参加した。

また、広報ツールとして、エコバック、パンフレット、ステッカー等を作成し、上記イベント出展時に配布した。

##### 【海外】

国際機関への働きかけ、海外での認知促進策として、7月のCOFI 2020（水産委員会定期会議）、11月のボストンシーフードショーへの参加を予定していたが、いずれもコロナ禍で中止となった。

9～10月にICFA（国際水産団体連合）年次総会がオンラインで開催され、大日本水産会の白須会長からME Lの制度と活動について説明していただいた。11月10日には、水産庁とSEAFDECとの定例会議に参加し、ME L認証スキームについて説明した。

他スキームとの協業の可能性を探る目的で、10月にRFM（アラスカの責任ある漁業管理）のスキームオーナーであるCSC（Certified Seafood Collaborative）

とウェブ会議を行い、C o C相互認証、その他協業への共同研究等、意見交換を行った。1月20日にはローカルスキーム設立を検討しているE A P O (European Association of Fish Producers Organizations) の会議に参加しM E Lの実例を紹介した。

#### 【機関紙・HP・SNS等】

機関紙「M E Lニュース」を毎月作成、発行し、会員・認証事業者・役員ほか関連の方々への情報共有に努めた。4月から認証事業者、ステークホルダーからの意見、コラムを紹介、かつ英語版を作成し海外向けのP R強化に努めている。

M E Lホームページを刷新し、フェースブックも開設し、情報発信型にリモデルした。教育教材向け出版社、女性向け雑誌出版社、新聞社、教育機関、水族館等からM E Lロゴ使用、M E Lの紹介記事の依頼に対応している。

事項・内容等	期日・回数等	場所等
東京シーフードショー	令和2年9月30日～10月2日	東京ビッグサイト
芝公園SDGs村	同 10月31日～11月1日	東京芝公園
東京湾大感謝祭	同 10月1日～25日	オンライン
暮らしフェスタ2020	同 10月9日～12月9日	オンライン
ICFA (国際水産団体連合)	同 9月～10月 (分割開催)	オンライン
豊洲シンポジウム	同 11月7日	豊洲市場
東京サステナブル・シーフード・シンポジウム	同 11月4日～11日	オンライン
FISH-1グランプリ	令和3年1月22日～2月26日	オンライン
E A P Oカンファレンス	同 1月20日	オンライン
FOODEX JAPAN 2001	同 3月9日～12日	幕張メッセ
大阪シーフードショー	同 3月17日～18日	大阪ATCホール
ATC海洋WEEK	同 3月18日	同上

#### (5) 商談会及び講習会・研修会

東京シーフードショーでM E L紹介ブースとM E L認証商品ブースを設置し、M E L認証の認知度アップ、認証商品の案内を行った。同時に認証事業者単独で出展し、ヨンキュウ、三重県漁連、兵殖、鹿屋市漁協が出展した。FOODEX JAPAN 2021、大阪シーフードショーについて、東京シーフードショーと同じスタイル (認証パネル、認証商品展示) で出展した。

大日本水産会主催による「水産エコラベル認証取得のための講習会」を岩手県、香

川県、鹿児島県向けにオンラインにて開催した。また、県漁連、漁協、漁業団体、地方市場、食品メーカーに直接訪問し、MEL認証取得促進の説明会を行った。一部の都道府県では認証実績、審査申請がないケースが散見され、漁業生産量の高い県でも同様な状況があり、次年度の課題として取り組んでいく。

審査員研修会は既存審査員の能力向上のためCPD研修会を7月29日～30日、令和3年2月1日～2日、3月15日～16日に実施、新規審査員養成のための研修会を11月16日～18日に開催した。

事項・内容等	期日・回数等	場所等
東京シーフードショー	令和2年9月30日～10月2日	東京ビッグサイト
FOODEX JAPAN 2021	令和3年 3月 9日～12日	幕張メッセ
大阪シーフードショー	同 3月17日～18日	大阪ATCホール
水産エコラベル認証取得のための商談会・説明会		
合食グループ	令和2年 7月13日	オンライン（東京・神戸）
福島県漁連	同 7月20日	いわき市（福島県）
愛知篠島漁協	同 5月19日	南知多町（愛知県）
日本遠洋旋網漁協	同 8月 2日	オンライン（東京、福岡）
静岡由比港漁協	同 12月 8日	静岡市
岩手県	令和3年 2月 8日	オンライン（東京、釜石）
香川県	同 2月 9日	オンライン（東京、高松）
京都市場	同 3月12日	京都市
鹿児島県	同 3月29日	オンライン（東京、鹿児島）
認証審査員育成のための研修会 （漁業、養殖、COC）	令和2年 7月29～30日	神奈川県川崎市
	同 11月16～18日	神奈川県川崎市
	同 2月 1～ 2日	神奈川県川崎市
	同 3月15～16日	三会堂ビル

## （6）その他活動

マネジメントレビューの一環として、認定機関、認証機関と審査実績、MEL認証スキームの課題の共有、改善提案を行う目的で3月30日に三者会議を開催した。

（参加者：日本水産資源保護協会、日本適合性認定協会、海洋生物環境研究所、水産

庁、MEL協議会)

認証機関以外にコンサルティング会社とも定期会議を行い、コンサル、審査、認証を一貫した進捗を管理する仕組みにした。3月31日には水産庁に参画していただき、次年度のコンサル事業の進め方等について会議を開催した。

専門機関を通じて、海外でのMELマークの商標登録化の調査を行っている。対象は北米、欧州、アジア、オセアニアで、将来のMEL認証の水産物、製品の輸出、現地流通を意図したものである。

水産エコラベル認証審査支援システム(MuSESC)の実用テストに参画している。ネットワーク上で水産資源、専門文献等のデータにアクセスでき、また審査当事者間をリンクさせ審査の標準化と効率化、審査費用の低減等を進め、広く国内事業者に普及することを目的としている。引き続き、水産研究・教育機構、食と生態系、日本水産資源保護協会と連携していく。

認証事業者がロゴマーク付きの商材等を作成した際の印刷費を補助する水産庁の補助事業(水産エコラベル認証品のPR支援事業)の事業実施者として、申請のあった5事業者(愛南漁協、東町漁協、ぎょれん総合食品(株)、三重県漁連、(株)ヨンキュー)について、水産庁と協議の上、各事業者に対し印刷費の半額を補助した。